



当てはめて書かれたものであり、新メンバーの加入によって変わっていくものでもあるが、例えば、その歌詞の登場人物（主人公）の性格は、意外と変わらない。

安倍なつみなど、センターとなるメンバーを最良しては、いなかった。

デビュー当時、安倍なつみを推していた（安倍を中心に売り出していこうと考えた）のは、つんく♂ではなく、当時のモーニング娘。マネージャーであった和田薫。

メンバーの選考について100%つんく♂だったのは4期メンバーまで。

「LOVE マシン」のヒット以前は、つんく♂の好きにやらせるという、のんびりした空気だった。

アップフロントはハロプロ研修生（当時のハロプロエッグ）を重要視していなかったため、エッグからモーニング娘。メンバーへ昇格させることが難しかった。

つんく♂はハロプロ研修生（エッグ）のメンバー、全ての人となり、キャラクターを把握していた。

ここまでがハロプロ総合プロデューサーだった頃のエピソード。

プロデューサーを降りたのは病気のせいではなく、自身が描くハロプロとアップフロントが目指すところが違ってきたため。

ハロプロの総合プロデューサーを降りてから、つんく♂は、ハロプロについて、ほぼモーニング娘。についてしか語らなくなった。著書にも書かれているが、モーニング娘。は「音楽人生の半分以上を賭けてきた」存在だと言う。『オフィシャルブック』ではモーニング娘。を「もう1人の僕」だと言う。Berryz工房や℃-uteなど、つんく♂プロデュースのハロプログループは数多くあるが、それらについて彼が語ることは、無くなった。彼にとって、モーニング娘。は特別なものなのだと、ぼくらは気付かされた。

つんく♂がハロプロの、モーニング娘。の総合プロデューサーから離れて、現在のモーニング娘。はどうなっているのか？

つんく♂がモーニング娘。をプロデュースする際に重要視していたのは、自分を驚かせてくるような新メンバーを探して加入させること。メンバーから刺激を受けて曲を作ること。16ビートのリズム感を教えること。ハロプロの総合プロデューサーを降りて、現在ではハワイ在住のつんく♂は、以降に加入したモーニング娘。新メンバーについて詳しくなく、曲の「当て書き」が出来ないことを少し悔しがっている。

つんく♂が他のプロデューサーと違っていたのは、自ら仮歌を録音することだ。初期にはレコーディング時にマンツーマンで指導していた。それは、陶芸家が弟子にその技を相伝する行為に近い。喉の調子が悪くなり仮歌の収録を止めるまで、彼は仮歌を録音し続けた。結局、喉頭癌で声帯を失うこととなった。彼は命を削ってハロプロを作ってきたのだ。

2015年から、ハロプロはつんく♂不在の穴をどうやって埋めるか、必死だった。本題ではないので詳しくは書かない。

モーニング娘。'14のニューヨーク公演。これはプロデューサーつんく♂の最後の仕事だった。翌年の2015年から、つんく♂はモーニング娘。に楽曲を提供するソングライターとしてモーニング娘。に関わるようになった。他のハロプログループに曲を書くことは、ほとんど無くなった。

モーニング娘。'15からは、つんく♂のプロデュースでは無くなった。ぼくらはこれを、富野由悠季以外の監督のガンダムのように感じ取って、見続けている。ガンダムとは富野監督作品のみを指すというファンがいると聞く。

最新のモーニング娘。のアルバムには、つんく♂楽曲が多く収録されているのだが、それまでの「Produced by つんく♂」と表記されていた頃と比べて、どこか物足りなさを感じてしまう。全体的に似たような曲が続く。聞きやすいかもしれないが、「Produced by つんく♂」ラストとなったハロプロ研修生のファーストアルバム（2015年発売）のような、鮮烈な印象とは程遠い。

## 語られなくなった安倍なつみ

ところで、ぼくらの記憶だと、モーニング娘。の中心人物は、グループのマザーシップとも称された安倍なつみだった。どう見ても、そのように感じられた。「ふるさと」までのモーニング娘。楽曲は、安倍なつみを主人公として描かれたものだと思っていた。だからぼくらは、プロデューサーのつんく♂自身が安倍にかなり入れ込んでいたのだと思っていた。ところが、最近のつんく♂の発言を読むと、安倍なつみをそこまで高く評価していないことが気になった。

ハロプロ20周年ということで、現在のモーニング娘。メンバーが歴代の先輩についてインタビューなどで語ることが多いのだが、安倍なつみを偉大な先輩だと発言する者が一人もいなかった。

安倍なつみの名前を挙げるモーニング娘。現役メンバーが居ないことについては、とりあえず無視する。彼女たちの自由だからだ。勝手にすればいい。しかし、つんく♂が安倍なつみについて、さほど絶賛していないのは、意外だった。

しかし、「LOVE マシーン」ヒット後に刊行されたつんく♂の著書『LOVE 論』

(2000年)を読み返してみると、つんく♂の安倍なつみ評は、当時から現在まで、変わっていなかった。この著書では、安倍を森高千里(つんく♂にとってはアップフロントの先輩)と同様の「敷居の高い女」と称するが、要するに頑固なのだと言う。2018年の『オフィシャルブック』のインタビューでも、安倍=頑固と答えている。その点で、つんく♂の発言は一貫している。

その前の時点、モーニング娘。結成の経緯について、つんく♂はこれまでに何度も語っているが、ハロプロの総合プロデューサーを降りてから、その発言のニュアンスが微妙に変わってきた。もう、ぶっちゃけても良いだろうという感じだ。『オフィシャルブック』のインタビューの冒頭、つんく♂は、こう語る。マネージャーの和田薫は安倍なつみを中心に売り出すと息巻いていた。和田はシャ乱Qのマネージャーでもあった。和田の仕事がなければシャ乱Qのヒットはなかった。つんく♂は世話になった和田に恩返しをしたいということで、和田の意向を汲み、モーニング娘。のプロデュースを引き受けた。

プロデューサーであるつんく♂自身、安倍なつみをメインに売り出すとは一言も言っていないのだ。これがモーニング娘。の真実だ。

初期のアップフロントの戦略で、ぼくらは安倍なつみこそがモーニング娘。だという記憶を持つ。しかし、実際には、そうではなかった。安倍の人气が高いことは嘘でも幻でもない。だけどそれは、コンサートでなっちコールを繰り返すぼくらだけが知っている。それは、ぼくらが共有する体験談だ。

安倍なつみ、後藤真希、そしてハロプロのソロ歌手として最も有名な松浦亜弥。ぼくらは、この3名を「御三家」として特別視するけれど、つんく♂は誰も最厚していないし、彼は、あの頃は良かったというような、過去の栄光にすぎるような発言をしていない。『オフィシャルブック』でのつんく♂インタビューでは、どの時代のモーニング娘。が良かったと優劣を測るようなことはなかったし、現在でも過去の曲は古びていないのだと、いわば、モーニング娘。全肯定を行っている。

そのようななかで、ぼくらは、ずっと勘違いを続けてきたのだろうか。

ぼくらはこれまで、全てのハロプロメンバーにとって安倍なつみとはアークマスター(ここでは精神的支柱を指す)となっているものと、信じて疑わなかった。2018年現在、そういうふうには、なっていない。ぼくらがそう信じて疑わなかったのは、現在のモーニング娘。メンバーからリスペクトされている高橋愛を、それほど高く評価していなかったからだ。正当なものの見方ではないことは承知している。現在の若いファンにとって重要な、いわゆるプラチナ期が、ぼくらにとっては退屈でしかなかった。

高橋愛が絶賛されて、安倍なつみが無視されている。そのように感じるから、ぼくらは歴史の改変だと叫んだ。最近の安倍は育児休暇中であり、他のモーニング娘。OGと違って芸能活動を控えている。そして、ハロプロ 20 周年として多くのモーニング娘。OG が積極的にインタビューに答えているなかで、安倍は多くを語らない。現在でもモーニング娘。現役メンバーに言及しコミットしているモーニング娘。初代リーダー中澤裕子とは対称的に、安倍なつみは沈黙している。それは、もしかしたら、彼女の願う世界だったのかも、しれなかった。

安倍なつみのファンとして、思うところがあったので、ここまで書いたのだが、冷静ではないことを分かって頂けるだろうか？

現在のハロプロについて、ぼくらは何を見ているのか。興味が無くなったわけではない。無理してハロヲタを続けているわけでもない。そして、ぼくらがハロプロ以外のアイドルに夢中になることは無い。ハロプロと同じアップフロント所属のアプガや吉川友であれば見ることはあるかもしれないが、ハロプロ特有の「癖」にすっかり馴染んでしまっているぼくらは、ももいろクローバーや AKB のような他社のやり方が好きになれない。アイドルファンのなかにはハロプロだけは見ないという者がいる。だから、ハロプロだけを見続けるぼくらには理由がある。

ぼくらにとってモーニング娘。メンバーとは、安倍なつみからバトンを託された後輩なのだから、たとえ彼女たちから安倍の名前が出てこなくても、決して無視出来ない。

そのように考えるぼくらは、いわば安倍なつみの尻尾だ。



**モニ・セイクレッド～アイドルまとめサイトの作り方～ ¥300**

「まとめサイトの作り方」の解説や、「まとめサイト」の持つ意義についての考察。

**NAGANO! ¥300**

ファイブスター物語と永野護について語るエッセイ。初心者向け解説も。

**ひきこもり博士の [ハロプロ] [萌え] [エヴァンゲリオン] 研究日誌 ¥800**

「萌え」「アイドル」「エヴァ」「インターネット」に関する評論の総集編。

お求めは「はなごよみ」まで <https://osito.jp/dojin/>

「安倍なつみの尻尾」 萌えぎのエレン・著 2018年8月11日初版発行

# 補足説明

# お悩み解決にこの一冊

「仮名遣」とは、イの発音に対するい・ひ・ぬ、ズの発音に対するず・づ等、「仮名の書き分け方」の事です。

一方、「文語体」「口語体」は文体の種類です。

文語体……千年以上昔から使用されてきた書き言葉の文体

口語体……明治時代以降普及した、より話し言葉に近い文体  
現在は「現代仮名遣いは口語体専用、歴史的仮名遣は文語体専用」とみなされがちですが、戦前は「口語体を歴史的仮名遣で書く」事が普通に見られました。

「歴史的仮名遣」も「文語体」も必ずしも古語ではありません。特に俳句や短歌の世界では現役の言葉です。

	文語体	口語体
歴史的仮名遣	働かざる者食ふべからず	働かない者は食ふな
現代仮名遣い	働かざる者食うべからず	働かない者は食うな

戦後の国語改革では両方が同時に変更されたので混同しがちですが、「旧字・新字」は漢字の問題、「歴史的仮名遣（旧仮名遣）・現代仮名遣い（新仮名遣）」は仮名の書き方の問題です。

	歴史的仮名遣	現代仮名遣い
旧字	學校に來てゐるのでせう	學校に來ているのでしよう
新字	学校に來てゐるのでせう	学校に來ているのでしよう

大学生の皆さん、旧字で書かれた文献をコンピュータで書き出す時、文字コード表から漢字を一文一文字探して苦労して入力してませんか。

俳句や短歌の同人誌を作成する皆さん、仮名遣がいつもうまく変換されないので、毎回消して書き直してませんか。

戦前の書籍の復刻版やレトロな旧字旧仮名による作品の組版をがんばってる皆さん、一部の文字が旧字にならず新字のままだったり、新字から旧字に直す作業でお困りではありませんか。

旧字旧仮名による同人誌を定期的に発行するサークル「はなごよみ」の主宰者が、これまでの経験を元に、コンピュータで旧字旧かな文書を入力する方法を紹介します。WordやInDesignやTeX等様々なソフトを網羅します。

ダウンロード版は無料です。  
冊子版もあります。

<http://osito.jp/dojin/> まで。

「コンピュータによる  
旧字旧かな文書作成入門」

押井徳馬著  
はなごよみ

<http://eb.osito.jp/mf1a/>



- 「書き言葉には話し言葉と異なる、書き言葉の決まりがある」
- 「歴史的仮名遣は発音ではなく言葉を書き分ける決まりだ」
- 「漢字も仮名遣も残せ」
- 「言葉を簡単にし過ぎると複雑な思考ができなくなる」
- 「書き言葉の決まりはなるべく長持ちさせるべき」
- 「完璧主義をやめよう」
- 「専門家も他の人も同じ国語で書けた方がいい」

こんな論争が昭和時代まで（今も？）続きました。そして結局のところ、七十年前に「両方の意見の間を取った」のです。漢字を一八五〇文字だけ残し、仮名遣も一部残した以外は大体左の意見に基づき、新しい漢字表や仮名遣が作られました。



- 「話し言葉だけが本当の言葉、書き言葉はそれを写し取る道具」
- 「漢字も仮名遣もなくせ、発音通り『ワタシワ ヤマエ イク』とか『Watasi walyama e iku』と書く方が簡単だ」
- 「言葉は簡単にした方がタイプライターで書けるし便利だ」
- 「歴史的仮名遣は古くさい」
- 「言葉の決まりは所詮人間同士の決め事、どんどん変更しよう」
- 「完璧に覚えられない位なら、決まりなんてなくせ」
- 「難しい書き方は庶民には無理、専門家に任せよう」

言葉は何の道具？



コミュニケーションの道具



表現の道具



思考の道具



記録・保存の道具

「言葉はコミュニケーションの道具だし、読みづらい人に配慮して歴史的仮名遣は遠慮すべきだ」と主張する人が居ます。確かに学校の授業や会社を含めた共同作業などでは周囲に合せた方が良いものです。しかし言葉は「思考の道具」「表現の道具」「記録・保存の道具」でもあります。歴史的仮名遣による昔の本から「知らない事を学べる喜び」があります。「古文ではなく現代の言葉として、歴史的仮名遣で俳句や短歌その他文章を書く」事も自由です。もし機会があれば挑戦してみてください。言葉は専門家だけのものではなく、みんなのもんです。

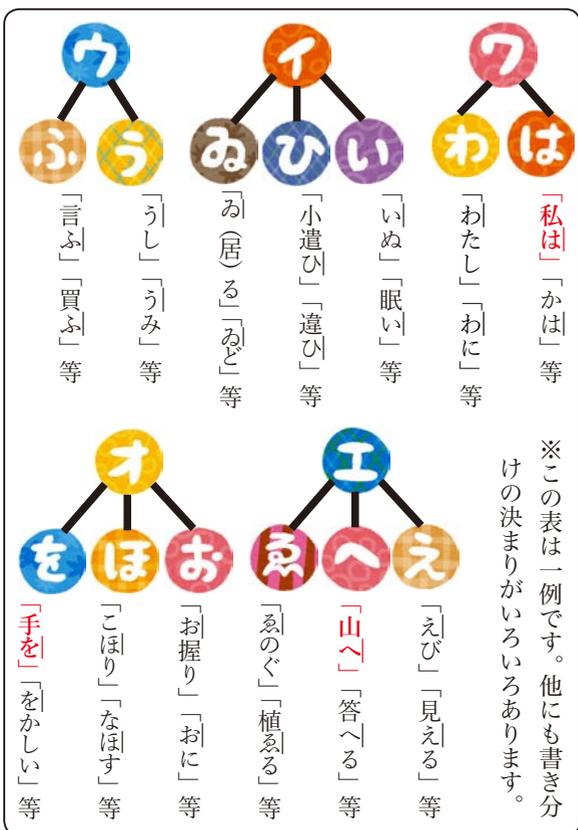
# 「言葉を見分けるもの」対「音を書き写すもの」

日本語のかな文字を書く時の決まりは、二種類あります。

- ・現代の学校で児童が学ぶ「現代仮名遣い」

- ・七十年前までの学校で児童が学んだ「歴史的仮名遣（旧仮名遣とも）」

「オの音は、『くつつきの』を』だけは『を』、それ以外は『お』の様に、同じ音に対するかなの書き分けを「仮名遣」と呼びます。



ひらがなを覚え始めた時、「どうして『くつつきの』を』だけ『を』と書くのか」と不思議に思ったかもしれませんが、慣れてくると、「を」と書く方が「言葉を見分けやすい」ことに気づきます。同じズの音でも、「ひき十する」は「ひきずる」、「き十つく」は「きづく」と、言葉によつてかなを書き分けると、やはり言葉を見分けやすいものです。

現代仮名遣いでは「くつつきの『は』『へ』『を』『や』『じ・ぢ』『ず・づ』の書き分けなどを残してその他はなくなりましたが、歴史的仮名遣には、元々「仮名遣」の決まりがたくさんありました。あまり読み慣れないうちは、ちよつと難しく感じるかもしれませんが、慣れてくるとむしろ「言葉を見分けやすく」なります。俳句や短歌など、限られた文字数の言葉でたくさんの方を表現したい時には特に便利です。これは今でもわざわざ歴史的仮名遣で俳句や短歌を詠む人が多い理由の一つです。

でも、七十年前に小学校の国語の授業が歴史的仮名遣から現代かなづかいになったのはどうしてですか。実は明治時代から続く「論争」があったのです。

## ●敗戦後の改革ブーム

日本が太平洋戦争（大東亜戦争）に負けると、占領軍の政策として様々な改革が実施されました。憲法改正、農地解放、財閥解体など。アメリカは「日本語に漢字があるのが良くないのでは」と思つて、ローマ字だけで書く国語にしようとしてしまつたが、識字率調査の結果が悪くなつたため中止になりました。

しかしあきらめなかつたのは日本人でした。明治時代からずっと暖められてきた仮名遣改造案の集大成として、国語審議会は昭和二十一（一九四六）年に「現代かなづかい」を作り、翌年度から学校教育に取り入れられたのです。

## ●現代かなづかいの「一時的な」妥協だつた

当時の国語審議会臨時委員だつた金田一京助は「新かなづかい法の学的根拠」の中で『は』『を』『へ』などは、日常たくさへん出て来る語で、これを一々みな『わ』『お』『え』と書いていたら、やはり目に抵抗が多かつて、とつつきがわるい。』『これを『わ』『お』『え』と書くことに抵抗を感じない若い世代は、ほとんど『わ』『お』『え』と書く事であろう。その方が進歩的なのであつて、これを強いて誤りにして罰点にすべきかどうか。』と、戦前世代の本音と戦後世代の理想について書きました。

「本音は徹底的な表音化をしたいけど、歴史的仮名遣に慣れた世代にとって特に抵抗の大きな言葉があるので、そこは当面妥協する」が「現代かなづかい」の思想でした。

## ●現代かなづかいに歴史的仮名遣を残す基準は？

ここで最初の「なぜ『ゐ・ゑ』が現代かなづかいで無くなり、『ぢ・づ・を』が残つたのか」につながります。国語審議会内の、歴史的仮名遣を無くしたい人々は、これらの字による書き分けを将来的に無くすつもりでしたが、一気に全部なくすと現代かなづかいが猛反対を受けてまた改革が失敗する恐れがあります。国語審議会で「優先順位」を付けて、その順位の高いものだけ残したのです。

そして、使用頻度の高い助詞の「は・へ・を」や、「同音の連呼」「二語の連合」による「ぢ・づ」、など一部が残つたのです。これでめでたしめでたし……といけばいいのですが、実はこの「二語の連合」による「ぢ・づ」の例外に入るかどうかは、国語審議会が恣意的に決めたもので、基準が曖昧なのです。

もと十つく||もとづく つめ十つく||つまずく  
にい十つま||いづま いね十つま||いなずま

「前者は二語に分解しやすいので『づ』、後者は分解しにくいので本則は『ず』らしいのです。こんなのわかりますか？

二語の組合せだと意識せず「わかりづらい」と書く人も、「わかる十つらい」で「わかりづらい」だとわかると「なあんだ、だから『づ』で書き分けるのか」と納得できます。現代の標準語で同じ音でも、別のかなで書き分けた方が都合の良い場合がありますし、その書き分けは決して意地悪とか旧弊ではなく、大抵背後にきちんと意味があるのです。（をほり）

ス・ワード・ファンにのみ與えられた特權であるといひ度い位です。

### クロス・ワードの假名遣

日本語のクロス・ワードには兎角假名遣法が厄介な問題になり勝です。どうせ遊戯だから普通便だろうが轉訛だろが或いは轉用だろうが誤用だろうが、そんなにやかましく詮索する必要はないではないかという論者もありますが、そういう解釋は日本の國語の將來の爲めにも、又現在の兒童教育や國民教育の爲めにも甚だ危険なことだと思ひます。著者は遂に「クロスワード教本」數種を著し、我が國に於ける此の種單行本刊行の先鞭をつけ、且つ國民教育上の主義と方針を掲げて聊か其の範を示し、其の著書中「上級版」及び「少年少女版」に於ては、小學校生の爲めに文部省現行の國定教科書による假名遣法を採用し、「家庭版」に於ては臨時國語調査會案の新假名遣法を採用いたしました。

時事新報が最初から舊假名遣法を以て一貫したクロスワードパツルの懸賞課題を掲げ來つた事は、主義として賞識に値するやり方だつたと思ひます。サンデー毎日も當初其の點に於て確固たる方針を示しませんでした。後に至つて國語調査會案の新假名遣法に則る旨を明示し、爾來其の方針によつて居ります。舊假名遣法による時に學者によつて見解を異にし、若干の言葉に對しては著作者を異にする數種の辭書に於て相異りたる假名遣法が採用されています。こんな場合に遭遇する毎に、クロスワード解答者は其去就選擇になやまされます。そうかと云つて今更舊假名遣法の詮索に没頭し、其の適否を論ずるが如きは尙る時代進行と云はなければなりません。此點に關して臨時國語調査會の發表した改定理由書の一節は、まことに要領を得て居ります。曰く、現今わが國に行はれてゐる國語及び字音の假名遣は、これを學ぶのに一方ならぬ苦心を要し、しかもあまりなくつかひこなすことが、なか／＼困難である。わが國民はずでに漢字に苦しんでいるのに、その上むずかしい假名遣とゆう重荷を

横の二十三番がどうしても解らない、改書に行つてたずねたら「語主模丁のお海蔵だ」ファン「しめた」

負うている。——と全く同感であります。著者は前記「上級版」の序文に於ても風にこう書いて置きました。

……國民教育の發達と國家文運の進展を促す爲めには先づ假名遣から改めてかゝらなければならぬと思ひます。著者はこゝゆう意氣込で今流行の新しいクロス・ワードパツルの中に更に新しい意義を見出そうとして居ります。

此の見地からして、著者はクロス・ワード・パツルの解答に使用する假名遣を、特種競技の場合を除いて、新假名遣法によらなければならないものと定めて居ります。單に遊戯上の便宜の爲めに、其の甚しい混用を軽く見過ごすことは、如上の理由の下に、絶対に排斥すべきだと心得ます。單にクロス・ワード・ファンが今日の假名遣法の煩累から解放されたいばかりの悲鳴ではありません。國語調査會の今度の改定案は、從來數次試みられた改定に比し、めて直截簡明であり、國語假名に於ても字音假名に於ても、特種の例を除く外皆統一單化されてゐるのであります。左に吾がクロスワードファンの爲めに、定案の概要を掲げて參考に供します。

### 改定新假名遣法

#### 【國語假名遣法】

- 第一 キ、エ、フはイ、エ、オに改める。たゞし助詞のヲを除く。  
【例】 イド(井戸) イノシシ(猪) コエ(聲) ツエ(杖) オケ(桶) ウオ(魚)
- 第二 チ、ヅはジ、ズに改める。  
【例】 クジラ(鯨) フラジ(草鞋) ウズラ(鶉) ミズ(水)
- 第三 ワに發音されるハはワに改める。たゞし助詞のハを除く。  
【例】 カワラ(瓦) ニワ(庭)
- 第四 イに發音されるヒはイに改める。  
【例】 ウグイス(鶯) タイ(鯛)

## ●文部省が漢字廃止の方針を打ち出す

明治三十五（一九〇二）年、漢字制限や仮名遣改訂のため、「国語調査委員会」が文部省に設置されました。「文字ハ音韻文字（フォノグラム）ヲ採用スルコトトシ、仮名羅馬字等ノ得失ヲ調査スルコト」つまり「漢字廃止」は既に決定事項でした（この方針が明確に撤回されたのが昭和四十（一九六五）年）。

国語調査委員会は後に「臨時国語調査会」「国語審議会」へと役割が引き継がれました。戦前も戦後も、「漢字を廃止してカナ文字またはローマ字だけで書く国語にしよう」と運動する人々の影響の強い組織でした。

## ●植民地で表音仮名遣による現地児童教育が始まる

内地では反対も根強く、歴史的仮名遣を無くす運動はなかなか進みませんでした。台湾・朝鮮・南洋群島といった植民地は別でした。「**植民地に新しい仮名遣の日本語を広めよう**」と、表音仮名遣を採用した国語教科書が作られ、現地の子供達に指導されました。細かな部分は地域により異なり、台湾では徹底した表音主義だったのに対し、朝鮮では途中で歴史的仮名遣に入る前の「足がかり」としての表音仮名遣だった様です。

## ●大正時代の「仮名遣改定案」「常用漢字表」

臨時国語調査会は、大正時代に「常用漢字表」（関東大震災のため実施されず。現代のものとは異なる）「仮名遣改訂案」など

を作成しました。「ぢ」「づ」ではなく一律「じ」「ず」で書く、「い（言）ふ」を「ゆう」と書く等が現代仮名遣いと異なりますが、助詞の「は」「へ」「を」の歴史的仮名遣を残すなど、後の現代かなづかいの基礎がここで作られました。極一部の人にはこの改定案が歓迎され、その表記で本を書く人も居ました。

## ●国語学者や文学者に反対された表音仮名遣

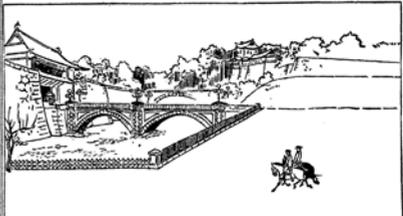
一方、歴史的仮名遣を無くしてはならない、と主張する人々も居ました（インターネットで探せば読めるものもあります）。

**森鷗外**は、臨時仮名遣調査委員会での演説「仮名遣意見」で、発音的な仮名遣は「許容」する事はあつても「正則」にすべきではないと論じました。**芥川龍之介**は「文部省の仮名遣改定案について」で、仮名遣改定案の問題点を指摘し批判しました。

「山田文法」で知られる国語学者の**山田孝雄**は、「文部省の仮名遣改定案を論ず」で、歴史的仮名遣への反対意見を論駁しました。学校文法の基礎を作った**橋本進吉**は、「表音的仮名遣は仮名遣にあらず」で、仮名遣の発生当初から単に音を写すものではなく語を写すものだった、と説き、表音的仮名遣は従来の仮名遣と性質の異なるものであると指摘しました。

国語学者による指摘は、歴史的仮名遣を無くしたい人には手強いものでした。「昔から使つて慣れたものだから嫌だ」ではなく、「**仮名の書き分けには意味がある**」事を理詰めで指摘したものだからです。

宮城 イラッシャイマス  
東京中 マ  
親 カワイガ  
子 カワイガ  
ル 人民



テンノウヘイカ ハ 宮城 ニ イラッシャイマス。  
宮城 ハ 東京 ノ マ  
ン中 ニ アリマス。  
テンノウヘイカ ハ、親  
ガ子 ヲ カワイガル  
ヨウニ、人民 ヲ

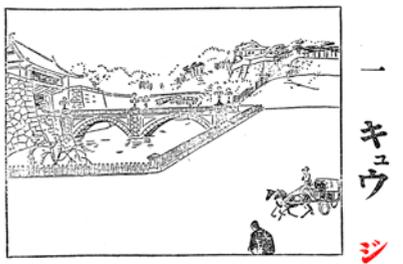
カワイガッテ  
テクダサ  
イマス  
ドモ  
ゴ恩  
アリカタ  
ク  
思イマス

ワイガッテ クダサイマス。  
私 ドモ ハ、テンノウヘイカ ノ ゴ恩  
ヲ、アリガタク 思イマス。

〔練習〕  
一、テンノウヘイカ ハドコニ イラッシャイマスカ。  
二、宮城 ハドコニ アリマスカ。  
三、テンノウヘイカノ ゴ恩 ヲオハナシ ナサイ。  
四ツギノ 本字 ニ カナ ヲオツケ ナサイ。  
人 ガ イマス。 三人 イマス。 人民。

朝鮮：巻七の途中まで表音仮名遣（助詞等除く）、以後は歴史的仮名遣  
（「普通学校国語読本 巻二」大正2(1913)年）

キョウ  
キョウ  
ジヨウ  
ジヨウ



一 キョウ ジョウ  
コレ ワ  
キョウジョウ ノ  
エ デ ゴザイ  
マス。  
キョウジョウ ニワ

テンノウヘイカ  
ガ オイデ ニ ナリマス。  
テンノウヘイカ ワ イキタ カミサ  
マ デ ゴザイマス。  
ワタクシドモ ヲ カワイガッテ クダ  
サイマス。

南洋群島：表音仮名遣（「南洋群島国語読本 巻二」大正6(1917)年）

当日 代 仕

二 中村君

一 大日本

天皇陛下を神ともあふぎ、  
おやともしたひてお仕へ申す。  
大日本、大日本、  
神代此の方一度もてきに  
負けたことなく、月日とともに、  
國の光がかがやきまさる。  
二 中村君

四月四日の朝、當番で僕が机の上をふいて

國五

陸下 九千 萬

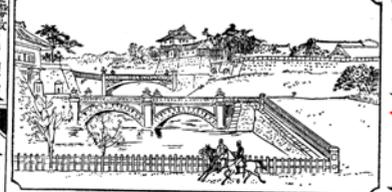


一 大日本

大日本、大日本、  
神のみすゑの天皇陛下  
われら國民九千萬を  
わが子のやうに  
おぼしめされる。  
大日本、大日本、  
われら國民九千萬は

國五

日本：歴史的仮名遣（「尋常小学国語読本 卷五」昭和6(1931)年）



コ、ニワ、才堀ノ上ニ、キレイナ  
橋ガ、ニツナランデ  
カ、ツテイマス。又、才  
堀ノムコオニワ、タカ  
イ石ガキガアツテ、マ

三 七 文 下 五 本 界

第二課 宮城

オスマイナサレル、ニツナラシテカル、リッパニミエル、  
人ガコシラエテアル、チヌツギオシタ人、

あります。

コレワ、ワガ國ノ 天皇陛下ガ、  
オスマイナサレル、宮城デアリマス。  
コノマワリニ、フカイオ堀ガア  
リマス。

三 七 文 下 五 本 界

台湾：表音仮名遣（「台湾教科用書 国民読本 卷七」明治45(1912)年）

何故 こ 漢字 の ヨクナイ か

此れ 此の 次ノ オモタル 理由ガ 了ル

字割 ノ ムツカシイ コト

「比叡山ハ 隆盛 獻上」トク 昔カウ、人泣カセノ 文字トシテ、言イ傳エラシメ ズルガ、「叡山」トカ、「獻上」トカ ヨウ フダシ ツカラス 文字ワ、知ラズシモ、書クズシモ、サツシカエ モ ナイガ、シラ、ショウゴ、シヨス、EOPF、フスマ、ショウジ、ナド 衣食住 ノ タメニ、毎日 ツカワネガ 了ラヌ、文字モ 急ニ 書コト スルト、字割ガ ワカリナイ モノガ 多クアル。小供タガ ガ ムツカシイ 文字ヲ、一字フツ オキエテ コク 苦心ウ、ソレヲ 見テ居ル 親タガ、教師タガモ、カウイフツ 思フ位チ フル。殊ニ 我國ニワ、近視眼ニナルモノ ノ 率ガ 世界一ダト ヨウ コト チ、ムツカシイ 字割ノ 漢字ヲ、小活字ニシテ、印刷シタ モノヲ 讀ムガ、其 オモタル 原因 チアルト、コワレテ 居ル。國民ノ 体

— 1 —

「国字問題：漢字ヨリノ解放」星野行則 著、  
カナモジカイ発行、大正 13 (1924) 年

2 序 文

着々採用される様になつて来る。ローマ字も矢張その一つで有つて、今後、世界の競争場裡においては、文字として之でなければ、到底日新の進歩に伴つて行けないものと成つて居る。今日においてはローマ字ほど便利な文字は世界中に無いと云つて宜い。さうして文字に関する機械や用品なども、最も便利なものは、大抵ローマ字を中心として發達して居る。斯う云ふ點から見て、今後ローマ字が益々勢力を得て普通一般に行はれる様になると斷言することが出来る。

翻つて日本帝國の國語の教育を見るに、日本人は何時までも支那の文章を手本として習はなければならぬので有らうか、又は西洋の文章を手本として習はなければならぬので有らうか。この事について私は、日本人が一日も早く外國文學の羈絆を脱して、獨立した日本文學の下に統一されねばならぬと云ふことを主張する。

國語を統一することが日本の一大事業であるとして見ると、我々は先祖代々使つて來た純粹の日本語を何處までも使ふ様にしなければならぬ。さう云ふ言葉で用の足る以上は、漢語や洋語を使ふに及ばないと信ずる。しかし日本語の上に必要な外國語は擇び採るべきものである。この日本語を守り立て、世の中に出し、之を帝

「日本ローマ字文自在」日下部重太郎・編、東京寶文館 発行、大正 5(1916) 年

Momotarô.

Mukasi-mukasi, aru Tokoro ni, Odiisan to Obâsan to ga imasita, Aru Hi, Odiisan wa Yama e Sibakari ni, Obâsan wa Kawa e Sentaku ni yukimasita.

Obâsan ga Kisi ni syagande, zabu-zabu zabu-zabu to Kimono wo yusuide imasuto, mukô kara, 'donburako, donburako!' to, ôkina Momo ga hitotu nagarete kimasita.

Miru nari, Obâsan wa soba ni atta Take-gire de, sore wo hiki-yose, Tarai ni irete, yorokonde Uti e kaerimasita.

"Hayaku Odiisan ga kaereba ii nâ!" to omotte iru tokoro e, Odiisan wa Senaka e dossari Siba wo syoikonde modotte kimasita.

「Mukasibanasi」土岐善磨・著、日本の  
ろ一ま字社 発行、明治 44(1911) 年  
※戦後、国語審議會会長を 11 年務めた人

3 序 文

國の言語として世界に紹介するのは、今後の愉快な一大事業である。斯う云ふ次第で進まうと云ふには、是までの日本文學上の言語文字の體裁は、極めて不便なもので有つて、世界的のもので無い。是までの文學を國家の貴重な記念物として研究すること、及び保存して行くこと、是は専門學者の任務である。普通一般の世の中から云へば、それらの學者の研究した賜物が、普通一般の言語文章で取次がければ宜いものである。その普通一般の言語文章といふものは、何處までも簡便でなければならぬし、世界各國人の間に認識され得るだけの價値あるもので無ければならぬと思ふ。斯う云ふ理由で私は、漢字を排斥し、國語を尊重し、同時にその國語にローマ字といふ着物を着せて、之を世界の廣場へ出したいと考へるのである。

斯の如く考へて居る私は、我が國語界の志士日下部君の此の著書を見て、この國家的事業の進歩發達のため誠に悦ばしく思ふ。ローマ字は僅に廿六文字の利器であるから、その綴り方が宜しきを得なければならぬ。綴り方が宜しきを得るには、精確な文法上の知識を以て之を整へなければならぬ。この書は、日本帝國の内外に行はれて居る最も穩健にして有力なローマ字の用方を



### ●前島密と漢字廃止論

江戸時代末期、前島密（近代郵便制度の父と呼ばれ、一円切手の肖像にもなった）は、アヘン戦争後の清の衰退は難解な漢字のためとし、日本は漢字を廃止すべきだとする「漢字御廃止之議」を将軍・徳川慶喜に提出しました。

### ●明治政府による普通教育開始

政府が国語表記の標準を決めて学校教育での普及を図る時代が到来しました。当初は、大筋はこれまで通りのかなや漢字や仮名遣でした。大きく変更する理由が特になかったからです。

### ●国語の近代化として、漢字廃止と仮名遣表音化を求める声

日本人が驚いた西洋の文明の一つが、手早く綺麗に文章を書けるタイプライターでした。しかし漢字は数が多くて、タイプライターの鍵盤で打つ事が出来ません。それに、覚えなければならぬ文字も西洋の言葉より多くて時間が掛かりました。「**中国の文字を無くして、純粋な日本の言葉にする**」事が一部の人の悲願となり、活発な運動が始まりました。

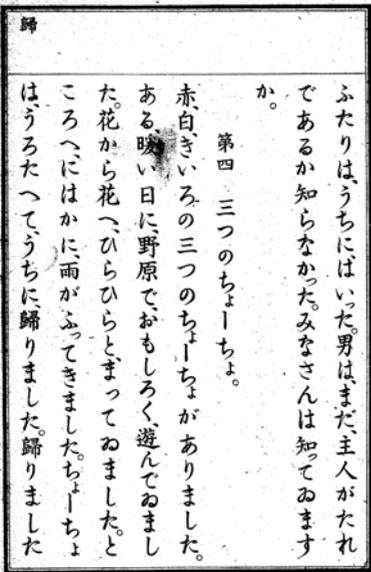
**漢字を無くすと、これまで漢字に隠れた仮名遣が表に出て来**ます。これも「覚える手間が掛かる」からと、「かなの書き分けをやめて、現代語の発音を元にしたかなの書き方にする」事を求める声がかかる様になりました。

### ●字音棒引仮名遣

そんな風潮の中、明治末期に、学校教科書では漢語の仮名遣のみ表音式（和語は歴史的仮名遣のまま）の教科書が作られ、数年間使用されました。伸ばす音を「ー」で書くのが不評で、以後の仮名遣改定案では、教訓からか「ー」を見なくなりました。

### ●点字に採用された表音仮名遣

日本語の点字は現代仮名遣いと少し異なる、より表音的な表記ですが、明治時代に原形を作った石川倉次は国語改良運動に興味があり、前述の字音棒引仮名遣の影響もあつたとされます。



「尋常小学読本 七」明治 36(1903)年  
「てふてふ」でないのに注目！

# 現代かなづかい前史

① 「どうして歴史的仮名遣は同じイの音が『い』『ひ』『ゐ』と、三つの書き方に分かれるのかわからない。一つにまとめた現代仮名遣いの方がわかりやすいのに」



② 「現代仮名遣いの『じ・ぢ』『ず・づ』『お・を』などの書き分けと、発想は同じです。『無駄な骨折り』ではなく『言葉の組合せがわかりやすい』『言葉を見分けやすい』など、きちんと意味があるんです」



③ 「それなら、『ゐ』『ゑ』が現代仮名遣いになくて、『ぢ』『づ』『を』が現代仮名遣いにあるのはどうして？」

④ 「不思議ですね。実は『ゐ』『ゑ』だけでなく、『ぢ』『づ』『を』も無くなる危機にあったのです。現代かなづかいは、実は明治時代からの試作を重ねて出来たものなのです」

ゝゐ・ゑが捨てられ  
ぢ・づ・をが残った